Sinite Parvulos Venire Ad me
子供たちを私のもとへ来させなさい

Viator

VOL.002

四旬節、みなさまいかがお過ごしでしょうか？ Viator Vol. 2 をおとどけいたします。
最初の記事はボアベール神父様から信者の皆様へのメッセージです。

四旬節を過ごすにあたって

主任司祭　イブ・ボアベール

四旬節とは何のための期間でしょうか？　どのような意味があるのでしょうか？
かつてイスラエルの民は、救世主を待ち望んだまま気の遠くなるほど永い時をすごし、その到来を待たずして亡くなっていきました。現代に生きる私たちも、当時の彼らと同じ気持ちでキリストを待つべきです。四旬節はそのための期間です。しかしそれは、キリストの再臨、つまり最後の審判を待つという意味ではありません。

生きている間に必ず私たちはキリストに出会う。生きている私たちがキリストの招きに気付き、それに応える時が必ずあります。その時を待ち望むのです。応える「時」は人によって様々です。イスラエルの民が歴史の浮き沈みの中で、王国の民であった時も、他国の奴隷であった時も、いつも変わらない神への信仰を持ち続けたように、私たちもどんな逆境におかれても、どんな試練があっても、あきらめずに神のもとを歩みたいものです。アブラハム、モーセ、預言者たち、みな行き先の分からぬまま、ただ神の声だけを頼りに歩み続けました。人間の苦しみ、痛みは何のためか、どんな意味があるのか？分からなくてもいつも希望、たえず信仰を持ち続け、どんな試練に直面しても立ち上がって歩んでほしい。
これこそが四旬節のメッセージです。

四旬節は 40 日間です。エリヤ、モーセ、そしてキリスト、みな 40 日間神と対話しました。この 40 日というのは、受け取った神からのメッセージを、実行に移せるようになるまで熟成させるのに必要な期間の象徴です。

公生活に先立ち、キリストは神の御言葉に耳を傾けられました。それは、自分勝手に奇跡を行うのではなく、神の御意志を何より大切にされたからです。私たちもキリストに倣い、四旬節は毎日神の御言葉を聴く機会を持つべきです。御言葉は食べ物と同じに、私たちが生きていくうえで必要不可欠のものです。

特に四旬節はしっかり目を覚まして、御言葉のその香り、歯ごたえなどを、食べ物のように深く何度も、何度も、噛みしめて味わいましょう。物質的な糧ではなく、心の糧について思いを深めるのです。

「イエスはお答えになった。「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある。」（マタイによる福音書 4 章 4 節）また、「施しをするときは、右の手のすることを左の手に知らせてはならない。」（マタイによる福音書 6 章 3 節）と書いてあります。

私たちは実にストレスに満ちた現代社会に生きています。それはまるで砂漠を延々と苦難の旅を続けたイスラエルの民のようです。心にたまったコレステロールで窒息しそうです。この機会にたとえ一時的にでも、自分の内面の状態をよくするために、小さな犠牲や断食をお捧げしましょう。義務感からではなく、喜びをもって！

「ヤコブは眠りから覚めて言った。『まことに主がこの場所におられるのに、私は知らなかった。』」（創世記 28 章 16 節）

主はすでにあなたのそばにおられるのです！

それを決して忘れず、心に留め、祈ってください。自分のため、友人のため、家族のため、みんなのために。主が、あなたの傍におられるのを感じながら、あなたの中に生きておられるのを感じながら、希望を持って・・・。

主の復活に向けて、心の準備をしましょう。

「イエスは言われた。『なぜ眠っているのか。誘惑に陥らぬよう、起きて祈っていなさい。』」（ルカによる福音書 22 章 46 節）

最後に、四旬節のメッセージを締めくくるのに、最もふさわしいと思われるヨハネの黙示録 19 節 5 節から 10 節「子羊の婚宴」の部分を信者の皆様にお示しします。どうぞ、よく味わって下さい。そして、共に祈りましょう。

19 : 5　また、玉座から声がして、こう言った。「すべて神の僕たちよ、神を畏れる者たちよ、小さな者も大きな者も、わたしたちの神をたたえよ。」

19 : 6　わたしはまた、大群衆の声のようなもの、多くの水のとどろきや、激しい雷のようなものが、こう言うのを聞いた。「ハレルヤ、全能者であり、わたしたちの神である主が王となられた。

19 : 7　わたしたちは喜び、大いに喜び、神の栄光をたたえよう。小羊の婚礼の日が来て、花嫁は用意を整えた。

19 : 8　花嫁は、輝く清い麻の衣を着せられた。この麻の衣とは、聖なる者たちの正しい行いである。」

19 : 9　それから天使はわたしに、「書き記せ。小羊の婚宴に招かれている者たちは幸いだ」と言い、また、「これは、神の真実の言葉である」とも言った。

19 :10　わたしは天使を拝もうとしてその足もとにひれ伏した。すると、天使はわたしにこう言った。「やめよ。わたしは、あなたやイエスの証しを守っているあなたの兄弟たちと共に、仕える者である。神を礼拝せよ。イエスの証しは預言の霊なのだ。」

2012 年役員、各部会代表・副代表年頭あいさつ

【役　員】(50 音順)

役員：K.K

ついこの間まで「若手」と呼ばれていたのに、いつの間にか「青壮年」と呼ばれるようになり、自慢できるとすれば元気なだけが取り柄です。昨年役員選考委員になって、最後は神父さんからお願いするように、そうすれば滅多な事がない限り神様の仕事を断ることはできないだろうと、我ながらいい提案をしたと思っていたのに、まず第一番にそれが私自身に適用されるとは……思ってもみないことでした。来年はまた、どなたかに神父様から同じようなお電話があることでしょう。その時はどうぞ私と同じように、三つ返事で「はい、分かりました、ありがとうございます」と答えてください。

役員：N.N

今年から教会役員をつとめさせていただく N.N と申します。洗礼名はヨハネで，フランス語などを教えております。

3.11 以降，あるフランスの思想家がこの大惨事についてキリスト教的な観点から哲学的エッセイを著しました。現在，その翻訳を進めています。大惨事，これはわれわれに歴史や生活の見直しを今も迫っています。生きている日本列島の歴史，あまりにも電力に頼る生活などなど，まだ終わらないこの大惨事が悲惨をもたらしただけではなく，われわれの教化にも役立つよう，願うばかりです。

役員：M.N

2001 年息子と夫の死をきっかけに、出会った人たちとの出会いのお蔭で、2006 年北白川教会で受洗することができました。信者としての年数が短い私が、教会のために何ができるのか、を考えながら、皆様の助けを頂いて、役員としての務めを果たしていきたい、と思っています。

役員：Y.N

今から数十年前に、高野教会で洗礼を受けました。
その頃は、大変真面目でしたから司祭になりたいと思ったこともあります。しかし、私には無理だと思い伏見にある聖母女学院で教員生活を送ってきました。子供が３人いますが、主日のミサに参加しようとしません。親の宗教教育が至らなかったと反省しています。

役員として二年目に入りますが、この小教区で「福音の分ち合い」「み言葉の分ち合い」が、しばしば行われるようにと願っています。

役員：Y.M

折り返しの一年になりました。皆様のお力を頂きながら、教会が祈りと共感の“場”となっていきますよう微力ですが役員としての務めを果たしていきたいと思います。宜しくお願い致します。

【施設管理部会】

代表：K.N

神様の教会を全信者でそれぞれの出来る仕事の中で感謝しながら、お手伝いをお願い致します。神様から生かされている事を忘れ、私利私欲にはしりがちになる私たちを反省し、私も皆様と共に、神の使命に感謝して、少しでも天国に宝を積む事を望みたいと思っております。

24 年度も施設管理部では必要な作業があります。作業はなれないと、すぐには、また、1 人では出来づらいと思いますので、70 歳位までの男性の方、いつからでも良いので御協力お願い致します。

【財務部会】

代表：H.N

幼児洗礼でしたので、信徒歴だけは長いのですが、内容が伴っていないので、まだまだ至りませんが、どうぞよろしくお願い致します。財務部では献金を適正に処理する様に、奉仕させていただきます。皆様からの献金は教会･修道会･教区･援助を必要としている所、等のために必要です。今後も皆様には更なる御協力の程、お願い申し上げます。

【広報部会】

代表：R.G

本年より広報代表を務めさせていただきます。洗礼名は、神父様の強い意向で、アジア人には全く馴染みのない名前となっております。名前と共に、変わっているので覚えて頂きやすいかと思います。昨年度は、一広報部員として、広報活動を軌道に乗せることを目標に増田代表の下で奉仕してまいりました。

本年は、力強い 2 名の副代表を始め、多くの優秀な部員の方々に恵まれ、各部員の方々と共に司祭方、役員方、各部会、事務室の皆様のご協力をお願いしつつ、教会の皆様のために、また、伝道活動の担い手の一つとして部会が発展していけるよう奉仕して参りたいと思っております。至らないところも多々あると思いますが、どうぞ、皆様のご協力・ご教授を宜しくお願い申し上げます。

副代表：T.N

広報部に入りました上倉庸敬（かみくらつねゆき）と申します。洗礼名は聖ラウレンシオ・ユスチニアーニからいただき、堅信のときは聖ペトロに守護をお願いしました。

老来からだが動かず、お役に立てるか心許ないことですが、上からの命令を忠実に実行する訓練は、ことに家庭で何十年と積んで参りました。なんなりとお申しつけください。できるかぎりを努めたいと存じます。福音を広めるという、広報の仕事に携われて、とてもうれしく、また緊張しております。

副代表：M.K

大聖年に受洗してから早や１２年。干支を一回りしてまた振り出しに戻る・・・。
歩みは遅々として進みませんが､教会のお仕事は嬉々として取り組みたいと思っています｡どうぞ、宜しくお願いいたします。

【典礼部会】
代表：T.M

昨年に引き続き典礼部の代表を務めさせていただくこととなりました。
典礼部の活動の中心は「ミサ」です。が、私自身ミサについて、よくわかりません。ミサを学ぶというと、私たちは「どうやって？」～すなわち、ミサのやり方～に意識がいきがちですが、その前に「なぜ？」～なぜ私たちカトリック信者はミサを大切にするのか～の問いかけが今もっとも必要だと思います。典礼部のリーダーという重要な役割をいただいたのを機会に皆さんと一緒に学び、神様の愛を感じながら日々をすごしていきたいと思います。

副代表：T.K

昨年に引き続き、典礼部の副代表を努めさせて頂きます。神様の御心に適ったよりよき北白川教会の典礼のため、ささやかな架け橋になれるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

【教育部会】
代表：Y.M

北白川教会に転籍した時から､日曜学校を通して親子ともに学ばせていただいてきました｡リーダーや保護者自身が自分の信仰と向き合いながら、子どもの信仰教育に携わることの大切さを感じています｡「子どもとともにささげるミサ」は、子どものためのミサではなく、子どもとともにささげるミサであることについてご理解をいただけるように内容を深めていきたいと思っています。

【教会行事支援部会】
代表：S.I

洗礼名はマリア、名前は聖子です。１２月２５日に和歌山市で生まれ、熱心なカトリック信者の母がこの名前と洗礼名を授けてくれました。名前で呼ばれるのが好きです。教会行事支援のお仕事をお引き受けして生活の中で教会がぐっと近くなったようです。楽しくお手伝いさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

副代表：K.H

昨年の御復活に受洗しました新人です。御想像通り、冬に産まれました。（詳しく申し上げると“冬至”の日です。）力不足ではありますが、誠実に務めたいと思っております。また、各行事を通して、一人でも多くの皆様と交流を深め、喜びを分かち合うことができれば、と思っております。どうぞ、宜しくお願いいたします。

【洛北ブロック担当】

F.A

ブロック担当の荒巻富美です。『洛北ブロック』は、高野・西陣・小山・衣笠・山国・宇津・北白川の７教会の構成です。このブロックの歩みが始まって、今年は二年目です。　新しいブロックの歩みは、急がずに、会議や集いを通して絆を深めていこうと確認されました。今年は、秋に、ブロック主催の『聖体讃美』が予定されています。ブロックの活動の窓口として、北白川教会からの情報の提供およびブロックの各小教区への情報の発信をしっかり行いたいと思います。そして、互いに知り合うことで、信仰がゆたかにされることを願っています。

「世界祈祷日」３月２日（金）カトリック河原町教会にて

典礼部副部長　T.K

１２のキリスト教会派が共に集い、メッセージに耳を傾け、そして共に祈りを捧げる。
今年はカトリック教会の当番年で、河原町教会において花井神父様の司式の中、祈りの時間を共に致しました。生憎の雨天でしたが約 250 名の参加（内カトリックは 105 名）があり、献金は 177,287 円捧げられました。

聖書の御言葉を聴き、祈り、そして「正義を訴えて立ち上がったマレーシア女性の物語」のメッセージを実際に聴かせて頂く貴重な時間でした。

かつてイタリアのアッシジで様々な宗教が共に会し祈る催しがありました。それが毎夏比叡山で行われる「宗教サミット」の起源だそうです（花井神父様の講話より）。同じキリスト教信者同志、日頃は交わる機会が少ないですが、年に 1 回、3 月第一金曜日に共に祈ること、そして参加し、継続していくことが大切だと思います。特に昨年は東日本で大きな震災がありました。宗教、教派を超えて、皆が一つになって助け合い祈り合うことが求められていると思います。
来年は日本ナザレン教団様が当番になっていますが、私たちカトリック教会も一致協力していきましょう！

3 月 18 日（日）子供と共に捧げるミサと日曜学校「春の集い」

先唱、オルガニスト、侍者、共同祈願と、子供たちが、それぞれ出来る形でいつも以上に奉仕をして、共に御ミサを捧げました。子供たちは、御ミサ後、お疲れさまとありがとうの言葉と感謝を信者の皆様から頂いて、ちょっと誇らしげに見えました。大事な、大事な「一粒の良い麦」たちです。

今日のお説教は、Br. 菅原から、「ろうそく」を例にとって、生きることは死ぬことに、死ぬことは生きることにつながることを教えて頂きました。「どろどろに溶けたろうそく、真新しいろうそく、どちらが生きていて、どちらが死んでいるのでしょう？」その問いかけからお説教は始まりました。子供たちは、真剣なまなざしで考えています。ブラザーから、「一見、死んだように思うのはどろどろに溶けてしまったろうそくのように思うかもしれません。でも、真新しいろうそくは、火を灯す事が神さまから与えられた役割であるならば、生きていません。死んでいるのと同じです。どろどろに溶けたろうそくは、灯をともしつくして、つまり生きていたのです。このように、死んで生きる、ということが言えます。イエス様も、死んで復活し、生きられました。御聖堂のイエス様は復活されたお姿ですが、御ミサ後、皆で小聖堂のイエス様を見てみましょう。十字架につけられているイエス様です。」と、教えて頂き御ミサ後、子供たちは、小聖堂へ移動しました。

十字架につけられたイエス様を前に、大人でも難しいと思われる「復活」「死と再生」というテーマが、Br. 菅原の説明と、視覚的な効果もあって、小さい子たちにも何かが伝わった様子でした。大きい子供たちが、小さい子供たちに説明している様子も見られました。ただただ、じっとイエス様を見つめる小さな目は、どの目もキラキラと輝いていて「子供のように信じる、祈る」事を反対に教わりました。

さて、御ミサ後の日曜学校「春の集い」では、赦しの秘跡を受け、初聖体・四旬節や御復活のお勉強の後は、皆でお昼を食べて、デザートの大きな 3 つのゼリーに子供たちは大喜びでした。満腹になってからは、皆で楽しくゲームをして遊びました。中高生の子供たちは、小さなリーダーのように子供たちをまとめ、楽しませることに協力してくれていました。良い息抜きになったかな？

本当に、どの子達も皆、素晴らしい私たちの宝ものです！

ロザリオの祈り

2012 年、大塚司教様の年頭書簡に沿って「ロザリオの祈り」が、信仰を証する方法の一つとして述べられていたことから、当教会でも大切に祈っていこうと年間目標として、この祈りが取り挙げられました。

当教会では、主日ミサの始まる 30 分前にみんなで、また、毎週金曜日のロザリオ会にて祈りが捧げられています。

今号の広報誌では、この祈りを特集の一つとしてあげたいと思います。

「ロザリオの祈り」については、多くの書籍が発行されていますが、そのなかでも前教皇ヨハネ・パウロ 2 世著「おとめマリアのロザリオ」が筆頭として挙げられます。今年で著・発行 10 周年を迎えます。是非、まだお読みでない方はご一読ください。

ロザリオの祈りの由来、参考書籍などをご紹介します。

19 世紀の末、教皇レオ 13 世によって、毎年 10 月をロザリオの月と定められました。ロザリオは聖母マリアへの祈りであるとともに、祈りの回数を確認するために用いる数珠状の用具のことを指します。大昔は、石を積んで数えたと言われています。

ロザリオの名前は、ラテン語のローザ（ばら）に由来し、バラの花園・バラの冠と言った意味を持っています。

言い伝えに、ロザリオの祈りを唱えると、天国の聖母マリアさまのところでバラの花が咲くと言われており、その言い伝えから、ロザリオという名前になったと言われています。祈りが目には見えない花束となり、天国で咲きほころぶのです。なので、霊的花束とも言われます。

日本のキリシタン時代にも、ロザリオの祈りはポルトガル語で数えるという意味のコンタツと呼ばれて祈られてきました。迫害されながらも信仰を守り抜いたキリシタンの大きな支えとなった祈りのひとつでした。

参考書籍：

☆前教皇ヨハネ・パウロ 2 世著「おとめマリアのロザリオ」
☆サンパウロ編「カトリックの祈り」
☆カトリック中央協議会発行 / 日本カトリック司牧司教委員会　編 / 日本カトリック司教協議会常任司教委員会 増補改訂「ロザリオの祈り」
☆ドン・ボスコ社発行「絵で見るロザリオの祈り」
☆女子パウロ会発行「目からウロコ　ロザリオの祈り再入門」
☆あかし書房発行、イエズス会の門脇佳吉神父様著『呼吸と共に祈るロザリオ』
☆エンデルレ書房発行『ロザリオの神秘』

カトリック聖ヴィアトール北白川教会　広報部会　2012 年 3 月 25 日発行
ホームページ：http://www.stviator-kitashirakawa-catholicchurch.or.jp